

三重県史

通史編 近世 1

資（史）料の引用では、身分呼称や差別的な表現を、三重県が決議した「人権県宣言」や「人権が尊重される三重をつくる条例」の趣旨に則り、当時の表現をそのまま用いた。

一 職種や人物等の呼称・行為について、現在では不適切と考えられる表現も、歴史的にその実態を明らかにするため、そのまま使用したところもある。

一 本巻の編集・執筆には各方面よりご協力をいただいた。執筆者一覧は巻末に示した。

目次

凡 序 口
例 絵

「三重」の近世―「支配」の観点から 1

第一章 近世的支配の成立

三重県の近世のはじまり 23

第一節 織田信長の侵攻 25

一 織田信長の伊勢侵攻とその統治 25

永禄十年の伊勢侵攻／永禄十一年の伊勢侵攻／北畠国司家攻略／北畠氏の滅亡／北畠氏再興の動き／織田政権の伊勢国統治

二 長島一向一揆 38

織田信長と本願寺／長島一向一揆と長島願証寺／第一次長島攻撃／第二次長島攻撃／第三次長島攻撃と一揆の「根切」／一揆後の北伊勢

三 惣国一揆と信長の侵攻

吉田兼右の伊賀国下向／伊賀惣国一揆掟書／掟書の作成時期／織田信雄の伊賀侵攻／織田信長の伊賀侵攻／本能寺の変と伊賀国／徳川家康の「伊賀越え」

四 織田政権と志摩・紀伊

戦国期の志摩国と九鬼氏／九鬼嘉隆の志摩統一／戦国大名と志摩の領主／紀伊国と織田信雄／織田信長の戦争と九鬼嘉隆

第二節 豊臣政権の統治

一 伊勢国と秀吉の戦争

(1) 本能寺の変前後

伊勢国内の領主と滝川一益の関東支配／織田信孝の四国出兵計画／本能寺の変と織田信孝／本能寺の変と織田信雄

(2) 織田家臣団の分裂と伊勢

清須会議／織田家臣団の対立と信雄の家督継承／北伊勢の戦い

(3) 小牧・長久手の戦いと伊勢

織田信雄と羽柴秀吉の対立／小牧・長久手の戦いと伊勢国／北畠氏再興の動き

二 小牧・長久手の戦い後の伊勢国統治

豊臣政権の登場と国分／小牧・長久手の戦い後の伊勢国／織田信雄の北伊勢知行替／豊臣大名織田信雄／蒲生氏郷と松坂城／蒲生氏郷の領国支配

三 豊臣政権の成立と伊賀国

本能寺の変後の伊賀国／小牧・長久手の戦いと伊賀国／脇坂安治の伊賀国支配／筒井定次の伊賀入国とその所領／上野城の築造と伊賀衆対策／材木の徴発／山検地の実施

四 九鬼嘉隆の志摩国統治と堀内氏善の熊野統治

小牧・長久手の戦いと九鬼水軍／豊臣大名九鬼嘉隆／豊臣秀吉の紀州攻めと紀州支配／堀内氏善と熊野支配／熊野木材の供給

第三節 太閤検地と朝鮮侵略

一 太閤検地の実施

太閤検地と近世村落／太閤検地と検地帳・石高制／太閤検地の基準

二 伊勢国内の太閤検地

天正年間の太閤検地／伊勢国文禄検地の実施／検地条目と検地奉行の役割／検地実測の状況／知行高の確定／伊勢神宮領の改編

三 伊賀・志摩・紀伊国内の太閤検地

伊賀国の太閤検地／志摩国の太閤検地／紀伊国の太閤検地／紀伊国の天正検地帳／紀伊国の慶長検地帳

四 相次ぐ知行替

.....

織田信雄の転封／伊勢国の所領配置／徳川家康と四日市場／徳川家康と関町／蒲生氏郷の会津 転封／関白藏入地と秀次家臣の所領／秀次事件とその後	133
五 朝鮮侵略と水軍	133

第四節

関ヶ原の戦いと伊勢・志摩	141
一 関ヶ原の戦いの原因	141

豊臣秀吉の死去／会津征討

二

西軍の伊勢侵攻

伏見攻城／津城攻防戦／松坂城包囲と鍋島勢の動向

三

九鬼水軍の動向

九鬼嘉隆西軍に加勢／九鬼守隆の帰国／神宮領での戦い

四

関ヶ原戦後処理

西軍の退路／桑名城の開城／山岡道阿弥の活躍／大名の配置

五

慶長国絵図・郷帳の作成

国絵図・郷帳作成の意義／伊勢国絵図・郷帳の作成／伊勢国絵図記載内容／豊臣家臣団知行地の存在とその意味／本多忠政夫人の化粧料

第五節

専修寺と一身田寺内町の形成

170

一

専修寺の動向

織豊期以前の専修寺／織田政権下の一身田専修寺／豊臣政権期の一身田専修寺／朱印地寺院・門跡寺院／越前国専修寺との抗争の終息／一身田専修寺の本山化

二

寺内町の形成

一身田寺内町／専修寺伽藍の整備と寺域の拡張／寺内町の形成

176

第二章 支配機構の諸相

第一節

藩制機構の成立

一

桑名・亀山・鳥羽藩の支配

桑名藩／亀山藩／鳥羽藩／転封の多い三藩

185

二

藤堂高虎の入封と津藩の成立

筒井定次と富田知信／藤堂高虎の入封／藤堂高次の領地／藤堂高虎入封の意義／藤堂高虎入封前の伊勢国の知行割／藤堂高虎宛の徳川家康知行宛行状／支配の特質

197

三

紀州藩勢州領の成立とその支配

領内の城地／勢州三領／鳥見の存在／奥熊野の支配

206

四

小藩の領地とその支配

所領が散在する伊勢国／久居藩／長島藩／神戸藩／菰野藩／一宮藩・吹上藩／江戸時代初期に

211

第二節 遠国奉行と郡代・代官の支配

一 国奉行の存在

廃された藩／県域内に存在した大名の飛び地

国奉行とは／伊勢の国奉行

二 山田奉行の成立と意義

奉行の名称／慶長期の山田奉行／元和期の山田奉行／寛永期の山田奉行／伊勢湾口防備

三 四日市代官の支配

伊勢国の徳川家康領／関ヶ原戦後の代官／慶長国絵図にみる幕領／元和期の四日市代官／寛永期の代官／「慶安郷帳」にみる代官／元禄期の幕領／享保期の代官・美濃郡代管下の幕領

四 信楽代官の支配

信楽代官と伊勢国のかかわり／信楽代官所の財政関係史料／年貢率と年貢収入／小物成・付加税等／伊勢国への支出／その他の支出／城詰米・山田奉行役料・水主の俸禄

第三節 藩制機構の特質

一 諸藩の知行形態

知行形態／津藩の地方知行制と平高／紀州藩の知行制と今高／桑名藩の知行制／給人と知行地の関係／地方知行から蔵米給与へ

二 家臣団の形成と編成

家臣団の形成／家臣団の構成と増減／家臣の居住地／軍役と陪臣／武家奉公人

三 藩制機構のしくみ

戦闘時の家臣団編成／番方／役方の拡充

四 窮乏する藩財政と家臣対策

藩財政の窮乏／藩財政の立て直し／家中法度と儉約の奨励／家臣団の保護と救済

第四節 転封と改易

一 領主交代の多い藩

転封の視座／桑名藩／転封のネットワーク／亀山藩／転封の世紀／慶安四年の交換転封／石川家の来歴／寛文九年の転封／宝永七年の交換転封／享保二年の三方領知替／延享元年の交換転封（最後の転封）／鳥羽藩

二 転封の手続

転封史料の存在／転封の手続／申渡／請取渡に向けて／上使の任命と役割／上使尋書と引渡の書類／代官の役割／家中の手続／人の移動と引越料／道中の関所と女手形／請取渡御用懸と桑名上使の記録／請取渡に向けて／転封のクライマックス

三 転封の持つ意味

転封と地域史／大名の存在形態／領主交代前後の引継ぎ／亀山藩の大庄屋／持ち歩かれた法／地域と転封の関連／改易大名が少ない県下

第三章 神宮領の近世

第一節 式年遷宮の復興と伊勢神宮

一 織豊政権と神宮

神宮の式年遷宮／永祿六年の外宮式年遷宮／織田信長と遷宮／羽柴秀吉の台頭／羽柴秀吉の寄附／豊臣秀吉による式年遷宮／多数の参宮者

二 伊勢御師と慶光院の活動

伊勢御師の活動／徳川幕府と御師／徳川幕府と慶光院

三 幕府と遷宮行事

慶長十四年の式年遷宮／遷宮の費用／寛文九年式年遷宮の問題／幕府の方針

四 遷宮の諸行事

朝廷の儀式／用材に関する行事／神宮での行事／神領民の御木曳き行事

第二節 宇治・山田の近世都市化

一 近世期宇治・山田の都市化

宇治・山田とは何か／山田の領域と自治／宇治の領域と自治／山田外縁部の新興地「上之郷」／上之郷地域の都市化と牛頭社結衆中／戸数からみた上之郷地域の都市化／商業地河崎・船江の成立と外縁部の都市化／御師数からみた山田中心部の都市化／宇治の都市化と「間の山」

二 数量記録からみた宇治・山田の姿

宇治・山田の実像をいかにとらえるか／神宮領の人口／戸数からみた神宮領の発展期／門前町の御師数／御師数からみた門前町の姿／御師の檀那数／平時の参宮者数／富裕者数からみた都市の変容

三 山田奉行所の設置と統治

山田奉行所の設置／奉行の権限

四 近隣諸藩領と神宮

隣接諸藩と神宮／神馬の奉納／田丸領民と神宮／神領への火消人足出動

五 朝廷と伊勢神宮

神宮と朝廷間にかかわる職／大中臣氏と祭主・官司／神宮神事関係の復興

六 神主の組織

祭主・官司／禰宜・権禰宜／内人・物忌／諸役人

七 宇治会合・三方会合

組織と運営／政務の場所／三方会合の権限／「山田羽書」発行への関与

八 住民の身分的秩序

住民の家格／主従関係／帯刀をめぐる一件／住民の階層移動

第三節 宇治・山田の町政と諸負担

一 宇治・山田の町政機構

概要／会合の機能／公金管理	
二 負担の仕組み	424

宇治・山田の町と「貫」／会合所による貫徴収／会合費の管理／宮川渡船運営費にみる負担の仕組み／村の貫

三 寛政改革と諸負担への影響	431
----------------	-----

寛政改革／貫管理の変遷と影響

第四節 神宮領の特質	436
------------	-----

一 御師活動と参宮客	436
------------	-----

御師と檀那場／参宮客の宿／神楽料のシステム／御師宅の御馳走／御師の廻檀と土産物

二 「観光都市」としての宇治・山田	442
-------------------	-----

信仰の旅と娯楽／江戸時代の神宮参拜／古市／伊勢の名所／朝熊参詣と志摩巡り／遊覧を支えた人々たち

三 触穢制度の諸相	448
-----------	-----

神道の「穢れ」／触穢とは何か／速懸／災害時の触穢忌避／触穢の変容と解消

四 犯罪と諸事件	453
----------	-----

神宮領と盗賊たち／「御仕置例類集」にみる神宮領の犯罪／宮山と盗賊たち／遊女との痴情沙汰／遊女との駆け落ち

五 被差別民の活動	460
-----------	-----

第五節 周辺農村と直轄領	467
--------------	-----

被差別民の参宮／牛谷・拝田の民の警護役／神宮周辺農村の穢多身分／神宮直轄領の被差別民

一 神宮領の都市・農村関係	467
---------------	-----

神宮周辺農村の所在／周辺農村の特権と義務／会合組織との対立

二 村役人と若者組	470
-----------	-----

村役人制度／若者組の組織と役割／成人儀礼としての額取／富士参詣と祭礼

三 近隣諸藩領との争論	473
-------------	-----

漁場争論／紀州藩との領地争い

四 神領五か村の位置	475
------------	-----

神宮直轄領の成立／直轄領の支配と諸負担／参宮街道の影響／近隣諸藩との関係

五 滝原宮門前の直轄領野後村	479
----------------	-----

野後村の位置／山田奉行の野後巡見／吉田善三郎家の活動

六 神主領と御厨	482
----------	-----

神主領／御厨と贅の貢納

第六節 中後期の変容	485
------------	-----

一 山田奉行の支配の展開	485
--------------	-----

山田奉行の任務／触穢制度への介入／幕府の鳴物停止令と伊勢／松田貞居の統治／神宮領の寛政改革／風俗統制と天保改革／神主の人事への介入

二 朝廷勢力の接近

触穢令と神宮領／参否帳への対応／海防体制と異国人問題／朝廷勅使による神宮改革

494

第四章 民衆統治の成立と展開

第一節 村と町の支配

一 村方の支配機構

(1) 県域諸領の村方支配体制

郡奉行・代官／大庄屋／庄屋／五人組／在地取立役人

(2) 津藩の村方支配

加判奉行／郡奉行と郷代官／大庄屋／十人組から五人組へ／郷目付・組合目付・常廻目付

(3) 紀州藩の村方支配

勢州三領・本藩領の村方支配機構／大庄屋制の強化／枕突・物書・帳書／村役人給／在地取立

役人

(4) 鳥羽藩の村方支配

鳥羽藩の村方支配機構／大庄屋／庄屋

(5) 桑名藩の村方支配

在地代官制／前期久松松平家の在地代官制／奥平松平家の在地代官制／在地代官の職務

523

521

515

510

504

504

504

二 町方の支配機構

津城下の町方支配／松坂城下の町方支配／神戸城下の町方支配／鳥羽城下の町方支配／宿場町
四日市の町方支配

527

三 文書による支配

民衆支配の根本法令／五人組帳前書／紀州藩の郷組一札／村の文書管理

533

第二節 身分と家格

一 宗門改制度と宗門人別改帳

土地支配と身分支配／明治初年の身分構成／キリシタン禁令と宗門改／初期の宗門改帳／宗門
改と人別改／宗門改制度の確立／宗門改制度の完成／紀州藩の宗門人別改／神宮領の宗門人別
改／北勢諸藩の宗門人別改

540

540

二 近世身分支配の成立

諸身分の構成／百姓・町人の身分徴表／津藩の無足人／紀州藩の地士

563

第三節 年貢・諸役の徴収

一 徴租の仕組み

賦課基準となる村高／津藩の平高／年貢／検見取法と定免法／年貢の徴収と納入

582

582

二 領主米市場と廻米

年貢米の行方／廻船による江戸廻米／桑名米市場／鳥羽藩の石代相場／藩から払い下げられた
商人米の価値

588

三 諸役

諸役／県域諸藩の諸役／漁村・町場と諸役

595

四 村入用と領主

村入用／領主による村入用の統制／領主による村入用の監視

602

第四節

統治システムの再編と藩財政

607

一 藩財政の窮乏と再建

藩の財政窮乏の要因／藩財政の再建／藩財政の悪化と三都の出費

607

二 津藩の財政窮乏と財政再建

一七・一八世紀の藩財政／一九世紀の藩財政窮乏と財政再建

610

三 鳥羽藩の財政窮乏と財政再建

鳥羽藩の財政窮乏／鳥羽藩の財政再建

614

四 各藩の経済政策

藩専売制と藩札／鳥羽藩の専売制／「御救」としての紀州藩御仕入方／御救から「国益」への御仕入仕法の転換／紀州藩の藩札／津藩の藩札

620

第五章 一揆・騒動

第一節 近世社会の成立と一揆・騒動

633

一 三重県域の一揆概観

近世的秩序と百姓一揆／三重県域の一揆の特徴

633

二 土豪一揆と村間争論

北山一揆／粟加村騒動

643

三 百姓一揆の出現

越訴・直訴の出現／元文五年松坂領一〇八か村群訴／寛保二年田丸領群訴

645

第二節

近世社会の展開と一揆・騒動

652

一 惣百姓強訴の出現

(1) 明和五年亀山領八三か村一揆

652

実録と一揆／亀山藩の貢租増徴政策と一揆廻状／一揆の経過／亀山藩の防御態勢と一揆の鎮圧／一揆の指導層／一揆の要求と成果／明和一揆の特質

652

(2) 天明二年桑名藩一揆

661

桑名藩の財政窮乏と年貢増徴／一揆の発生と展開／一揆の被害と処刑

二 藩政改革と惣百姓強訴

(1) 寛政八年津藩寛政一揆

666

津藩寛政改革／切印金永年賦と地割／小倭郷の蜂起／津城下の包囲／要求承認と一揆の終熄／一揆の参加者／打ち毀し対象者の性格／一揆の要求／一揆後の津藩政

666

(2) 文政六年桑名藩助成講一揆

684

三方領知替と奥平松平家の忍移封／助成講／助成講一揆の始まり／一揆の展開と終熄／一揆の要求と参加者の処分

(3) 天保期の一揆・騒動

692

第三節

近世社会の動揺・解体と一揆・騒動

695

一 幕末維新期の一揆・騒動

695

(1) 紀州藩安政村替一揆

696

奥熊野諸村の村替／村替反対と実施延期／運動の分裂と打ち毀しの発生／村替中止と一揆の終熄／村替一揆の背景と惣百姓意識

(2) 尾鷲地域の諸騒動

704

(3) 北勢の助郷騒動

705

四日市助郷騒動／亀山助郷騒動

(4) 幕末維新期の諸騒動

710

村方騒動の頻発／宗門騒動の博徒

二 近世社会の終焉と明治四年伊賀国一揆

712

(1) 忍藩一揆

712

一揆の発生と展開／一揆の要求と攻撃対象

(2) 伊賀国一揆

715

平高廃止と騒動の発端／名張郡・伊賀郡の強訴／伊賀北部への展開と終熄／一揆の結果と処罰

第六章 災 害

／一揆の要求と背景／廃藩置県と伊賀国一揆

第一節

地震と津波

727

一 歴史上の地震と三重県域

727

地震災害と歴史学／地震史料の調査と編纂／三重県域を襲った地震の概況

二 宝永地震の津波と被害

732

被害の概況／地形と被害の軽重／生産手段の被害／「宝永海嘯ノ記」が伝える宝永地震

三 安政伊賀地震の被害

738

被害の概況／予兆としての前震／本震の発生／打ち続く余震と対応／犠牲者の供養と復興策

四 安政東海地震の津波と被害

743

被害の概況／津波の特徴／津波の被害／津波の流失物

五 地震被害からの復興

751

宝永地震時の救恤／安政地震時の津藩と鳥羽藩の救恤／安政地震時の紀州藩の救恤

六 地震被災者の供養と教訓

754

被災者の供養と伝承／供養塔と教訓／文献に記される情報と教訓／地震の知識とその限界

第二節 気象災害

763

一 各地の暴風雨被害	763
------------	-----

気象災害の様相／慶安三年の暴風雨／万治三年の暴風雨／延宝九年の暴風雨／寛保元年の暴風雨／享和二年の暴風雨／文化十二・十三年の暴風雨／安政二年の暴風雨／明治三年の暴風雨／被害情報の伝播

二 天候不順と病虫害	776
------------	-----

干魃と長雨／虫害と稲の病気

三 藩の救恤策と防災策	781
-------------	-----

急場の対策／修復／凶作・洪水等への対策

第三節 流行病	789
---------	-----

一 主な流行病	789
---------	-----

流行病の脅威／紀州藩尾鷲組の病死者人口動態／疱瘡／麻疹／痢病／傷寒／コレラ／家畜の病気

二 藩の対策	800
--------	-----

触書の論達と薬方書等の頒布／祈禱と御札の頒布／薬代の補助・薬の配布と医師の派遣／施米／民間による施米・施薬

三 民間での治療	806
----------	-----

売薬による治療／民間療法／刷り物等の流布／悪疫退散行事

第四節 火事	812
--------	-----

一 火事被害	812
--------	-----

度会郡宇治の万治の大火／津城下の寛文の大火／関宿の「味噌屋火事」／度会郡山田の「なたや火事」／桑名城下の元禄の大火／度会郡山田の宝永の大火／名張城下の宝永の大火／松坂城下の元文の大火／答志郡国府村の元文の火事／度会郡山田の明和の大火／紀州藩松崎浦御船蔵の火事／坂下宿の文化の火事／久居城下の「久居焼け」／英虞郡船越村の文政の大火／度会郡宇治の文政の火事／度会郡野後村里村の安政の火事

二 火消組織と消火体制	825
-------------	-----

三 防火施設	830
--------	-----

火の見櫓／自身番／百間堀／防火井戸／防火罌等／火伏せ神の勧請

四 火消道具	836
--------	-----

五 火事にかかわる賞罰	839
-------------	-----

執筆者一覧

協力者一覧

あとがき

図版・表の出典等一覧

口絵目次

- 1 津城古写真
- 2 亀山城古写真
- 3 九鬼嘉隆宛織田信長黒印状
- 4 伊賀惣国一揆宛書
- 5 太閤検地帳
- 6 松ヶ島城跡出土天目茶碗・家紋入軒平瓦
- 7 赤木城跡(熊野市)
- 8 峯城跡(枳形虎口)(亀山市)
- 9 神戸城跡(鈴鹿市)
- 10 専修寺山門(津市)
- 11 桑名城下図
- 12 久居藩陣屋図
- 13 山田奉行所図
- 14 鳥羽城下図
- 15 伊勢両宮曼荼羅図
- 16 歌川豊国作「伊勢音頭恋寝刃」

- 17 御城番屋敷(松阪市)
- 18 亀山藩家老加藤家長屋門(亀山市)
- 19 桑名領碑(四日市市)
- 20 庄屋屋敷(松阪市)
- 21 御師三日月大夫次郎屋敷
- 22 明和五年亀山領一揆史料
- 23 津藩寛政一揆史料
- 24 海泉寺墓地の津藩寛政一揆顕彰碑(津市)
- 25 仏光寺津波供養塔(紀北町)
- 26 安政伊賀地震供養塔(伊賀市 移設前)